

第10号（令和7年度3号）

南栗遺跡 発掘だより

令和8年1月8日発行

4月に開始した今年度の調査も、12月12日に無事終了いたしました。発掘期間中のご協力ありがとうございました。冬期間は出土した遺物や図面・写真の整理作業を長野市にある当センターで行います。

また、令和8年2月7日（土）から3月8日（日）まで、松本市のキッセイ文化ホールにて今年度の調査成果の展示を行います。詳細は当センターHPでご確認ください。皆様のお越しをお待ちしております。

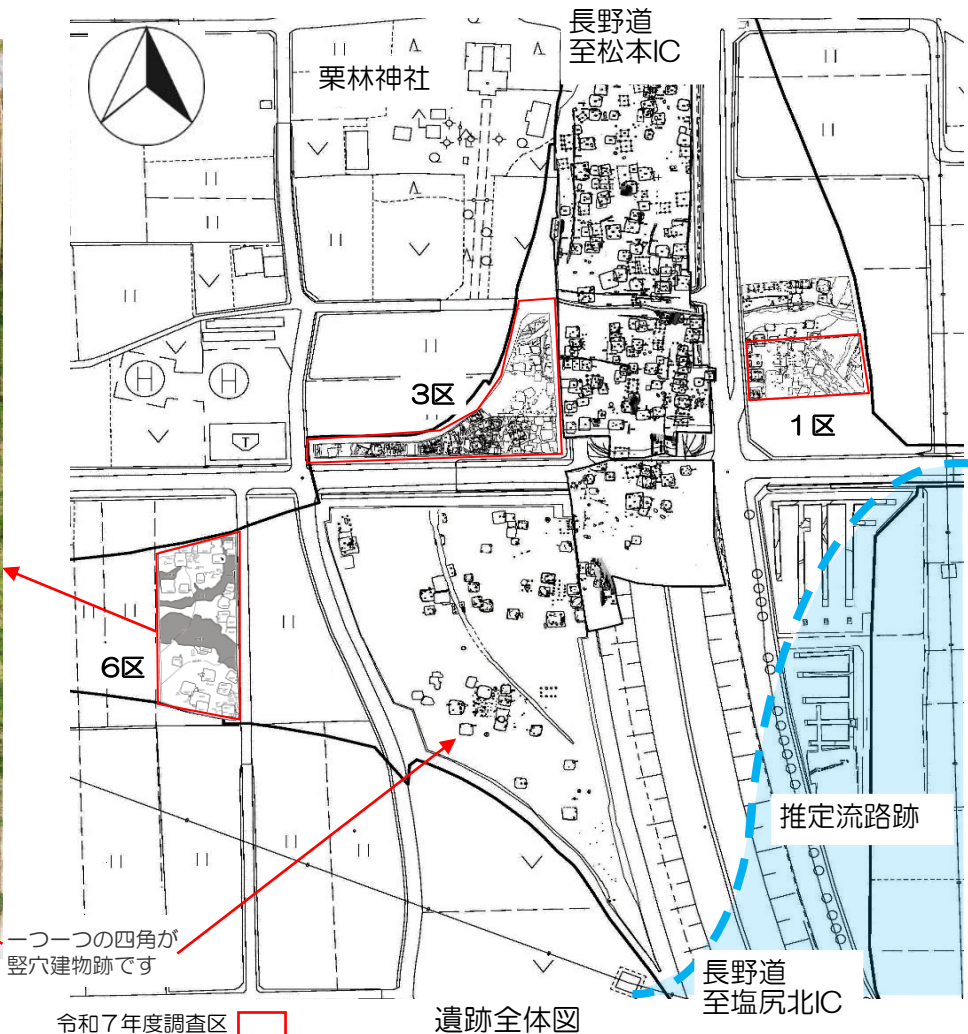
1 今年度の調査成果

今年度は^{たてあな}竪穴建物跡119軒、^{どこう}土坑367基などを調査しました。

本遺跡での過去の^{ほじょう}圃場整備や長野自動車道建設工事に伴う調査と、令和4年度から実施している松本JCT建設事業に伴う発掘調査を合計すると、確認された建物跡は644軒にのぼります。そして、これらの調査により、古墳時代後期から平安時代後期に至る約500年間にわたり人々が生活したことが確認され、島立・和田地区にはたくさんの人が居住していたことが明らかになりました。また、本年度は遺跡範囲の西側にあたる和田地区（6区）で、竪穴建物跡を28軒確認し、集落がさらに西側に広がることが明らかになりました。来年度以降の調査では、どのような遺構が見つかるのか、大いに期待されます。来年度以降の調査につきましても、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。



6区全景写真（上が北）



令和7年度調査区

遺跡全体図

2 えんめんけん 円面硯を発見

奈良時代の竪穴建物跡（SB6023）からは、須恵器の丸い硯が大小2点出土しました。これらは、「円面硯」と呼ばれる硯です。円面硯には大きさや形状にさまざまなものがあり、透かし穴をあけた脚や獣をかたどった脚が付いているものもあります。硯が出土したことは、文字を書くことを必要とした役人などがこの地に居住していた可能性が考えられます。



出土した円面硯



円面硯の一例

奈良国立文化財研究所 1991
『藤原宮と京』より

3 ちょうどうかめ 長胴甕が口を合わせた状態で出土！

平安時代の竪穴建物跡（SB6020）では、完形の長胴甕2個体が口を合わせた状態で出土しました。これは「横位埋設土器」あるいは「土師器合口甕」と呼ばれ、土師器甕や羽釜を組み合わせて横位に埋設するものです。これらの遺物の内部から歯牙や骨片が出土する事例があり、甕の大きさから乳幼児のための土器棺と考えられています。松本市周辺では、過去に城山遺跡（1927年出土）と富士電機松本工場遺跡（1944年出土）で南栗遺跡と同じ状態の長胴甕が出土し、城山遺跡では甕の内部から歯牙5点と骨片が、富士電機松本工場遺跡では骨片が出土しています。

南栗遺跡の長胴甕の内部からは歯牙や骨片は出土していませんが、松本市域の複数の遺跡で口を合わせた状態の長胴甕が出土することは興味深く、その背景を今後探りたいと思います。

参考文献

両角守一・堀内千蔵 1927 「一種の合口甕を出したる松本市宮淵遺跡に就きて」『考古学雑誌』第17巻 第11号
沼山源喜治 1981 「土師器合口甕棺葬について -東日本における諸例を中心に-」『考古学雑誌』第66巻 第4号
柳澤和明 2025 「横位埋設土器棺を用いた古代東国の乳幼児・死産児埋葬制」『日本考古学』第61号 吉川弘文館



口を合わせた状態で出土した長胴甕

長野県埋蔵文化財センター

〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4 TEL : 026-293-5926

MAIL : maibun@naganobunka.or.jp HP : https://naganomaibun.or.jp

担当 : 廣田/大泰司/鈴木/二ノ宮

支援業務 (株) シン技術コンサル : 松田/安生/重留

(株) 島田組 : 西尾/鍛冶屋/國分